

【08】質的研究と SCAT ～「量」では測れないものを科学的に考えるために～

【講師】大谷 尚

【要旨本文】

今日、あらゆる領域で質的研究が盛んに行われています。とくに対人援助の領域では、これまでの量的研究では扱えない問題にアプローチするための有効な手段として、爆発的と言えるほどたくさんの研究がなされています。また 2007 年に講師が開発した質的データ分析手法 SCAT は、現在では 900 以上の研究（博士論文 37、修士論文 51 を含む）で使用され、その中には国際誌の英文論文 67 もあります。

このように、SCAT のメリットの 1 つは質的研究の敷居を低くし間口を広げたことだと言えますが、そのような研究の中には、質的研究や SCAT に対する安易な理解や重大な誤解に基づいたものもあります。また、間違っただけでなく、せっかくここまでやったのならもっとこうしたら良かったのにと残念に思える研究もあります。

これらの問題の背景には、質的研究を包括的・体系的に学ぶ機会がなかなか与えられないことがあるのだと思います。たしかに日本で質的研究が盛んな領域では、その領域での質的研究の書物がいくつも出ています。しかしそれらはある意味でガラパゴス化していて、質的研究の共通言語が用いられていないため、他の領域の質的研究や外国の質的研究との交流ができない状態であるように思えます。さらにそこには量的研究との共通言語もないため、量的研究との対話もできない状態であるように思えます。

それに対して、日本の音楽療法の世界では、幸いなことにそのような問題状況はまだ形成されていません。だからこそ、この機会に質的研究の全体像と重要な点を理解して頂き、それを糸口として質的研究をさらに学び、実践して頂けたらと考えます。

このようにこの講演では、「質的研究とは何か」を、そのデザインや方法等を通して学び、SCAT についても学びます。その際、陥りやすい質的研究の落とし穴や SCAT の誤用の例についてもできるだけお伝えします。

受講にあたっては、あらかじめ「大谷尚（2019）質的研究の考え方－研究方法論から SCAT による分析まで－。名古屋大学出版会」を読んで頂くことが望ましいです。この本は現在第 7 刷を終え、総発行部数 15,500 に至っています。また、中国蘇州大学出版社から翻訳出版の提案があり、これに応じることになりましたので近い将来、中国語版も世に出ることになりそうです。

それでは、オンデマンドでみなさまにお会いできることを心から楽しみにしております。

【講師プロフィール】

筑波大学大学院博士課程教育学研究科中退、長崎大学助手・講師、名古屋大学助教授・教授・特任教授を経て、現在、名古屋経済大学人間生活科学部特任教授／全学教育推進センター長。自身の研究のために質的研究方法論をトロント大学で学び、その後それを専門の 1 つとする。音楽はいつも人生の大切な一部であり、学部卒業論文は齋藤英雄の指揮法教程。これまで複数の大学で音楽療法士のための質的研究のセミナー・WS を行う。